

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078300094		
法人名	有限会社 西日本総合		
事業所名	立花グループホームかつき苑	ユニット名	東館/西館
所在地	福岡県八女市立花町山崎1918番地		
自己評価作成日	平成27年5月11日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年5月25日	評価結果確定日	平成27年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

決められた1日の予定を消化していくのではなく、生活者のペースに合わせたゆっくりとした生活をおくっている。調理が好きな方は、調理を手伝ってもらったり、掃除が好きな方は一緒に掃除したり、裁縫が好きな方は、ズボンの裾上げやぞうきんを作ってもらったりと、やりたいことをやれる環境をつくっている。苑のバスにて季節ごとの風物や催し事などを見にお出かけを行っている。グループホームの生活者であっても、関連施設であるデイサービス等を利用したり、逆にグループホームにデイの利用者に来てもらうなど相互に協力しあう体制がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長閑な周辺環境の中に位置する広い敷地内には、居宅介護やデイサービスが併設され、開設して14年目を迎えている事業所である。入居される方々を「生活者」として、施設入所ではなく共同生活の場であるという地域密着型サービスの本旨に向き合うべく、ノーマライゼーション理念の実践に向けた取り組みを重ねている。共用空間は生活感にあふれ、起床時間にあわせた朝食の提供等、個人の生活習慣やペースが尊重され、普段着のまま過ごせるような安心感がある。所有するバスを利用し、全体で季節の花見に出かけたり、自宅周辺等馴染みの場所へのドライブを行ったりと、積極的な外出支援も行われている。利用料が低く設定されていることも特徴であり、豊かな生活環境の中で安心して暮らし続けることが出来るよう事業運営を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬天愛人・独立自尊・日日感謝を法人全体の理念としている。また「地域に根付き、地域と共に暮らせるように支えていきます」という文言の入ったグループホーム理念を朝礼にて毎日、全職員で唱和し、実践できるための確認を行っている。	職員が皆で考えた事業所独自の理念は、玄関やリビングに掲示され、朝礼時に皆で唱和している。その際に理念を基にした支援のあり方や、法人の運営理念に関連したミニ講和も実施され、毎朝の勉強会によって理念を再確認し、実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会に参加したり、行事や推進会議に区長・地域の方・民生委員等を招き交流をもっている。また、年度末には、それらの方々を招き、事業報告会も行っている。	地域情報を収集し、老人会の集会や行事、祭り等に積極的に参加している。また、事業所での夏祭りは、広く地域の人に参加の呼び掛けをし、盛況に開催された。ボランティアの方達の協力も得られ、交流が深まっている。複数の地域住民が参加し、避難訓練が実施されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム職員が老人会の集会等に参加し、インフルエンザ予防や感染症などの講演を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員・行政・家族代表・生活者代表・地域の方などが参加されている。外部評価などの事項は推進会議にて報告し、その際参加者より意見をいただき記録を残し、実践するよう心がけている。	生活者代表、家族、地域代表、民生委員、相談員、行政担当者の出席を得て、2ヶ月に1回、地域運営推進会議として開催される。利用者の状況や活動報告とともに、看取りや事故報告について議題として取り上げ、忌憚のない意見交換が行われている。家族には毎回参加案内を送付して協力を呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八女市役所立花支所の福祉担当者に推進会議へ参加していただいている。八女市役所、旧立花役場の福祉及び生保担当者には家族問題や金銭問題、生保など色々な相談等しながら苑での取り組みを相談している。	運営推進会議には、行政担当者の出席を得ている。不明な点や困難事例が生じた際は直接出向いたり、八女市地域密着型連携会議での活動を通じて、日頃から協力関係の構築に努めている。ケースワーカーの定期的な訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対しては、身体拘束に関する理解を深めるよう朝礼や研修等で説明を行っている。また身体拘束をしないでいいようなケアを行うため、ケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。	玄関の施錠は行われていない。個々の自由な時間の流れやペース、生活習慣を大切にし、抑圧感の無い暮らしの継続を支援している。また、動線の確保やリスクの軽減に向けて、生活空間作りにも配慮が行われている。委員会活動や朝礼時の勉強会にて、言葉かけも含む抑制について意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対しては、虐待に関する理解を深めるよう朝礼や研修等で説明を行っている。また虐待とならないケアを行うため、ケア内容の検討などを朝礼やカンファレンスにて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝礼等にて周知しているが、今後研修等にて学ぶ機会をさらに作る予定である。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、朝礼時の研修等を通じて、職員の理解を深める取り組みがある。入居契約時には、成年後見制度や日常生活自立支援事業について説明を行う等、情報発信にも努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と疑問があれば尋ねていただけるよう配慮し、契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時にもご家族とお話ができるように必ず声掛けをおこなっている。推進会議にても家族代表の方にも参加していただいているので十分意見を聞けるように配慮している。	毎月発行される「かつき苑だより」や状況報告書を用い、日常の暮らしぶりを家族に伝えている。運営推進会議や行事等の案内を重ね、意見表出やコミュニケーションを深める機会として活用している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者が普段から聞けるように良好な関係を構築している。またその意見は管理者より代表者に提案するようにしている。	管理者は、日々の朝礼時も含め、日常の中で職員意見の表出の機会を大切にとらえ、管理者会議等にて提案している。業務改善に向けて、まずはやってみるという姿勢で取り組む意向である。時折、職員との食事会も開催され、リラックスした中でコミュニケーションを深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は職員の努力ややる気を押し進め、本人の能力向上のため研修に参加させ、スキルアップに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては不当な理由での排除は行っていない。職員の働く意欲が出て能力が発揮できるように、朝礼などを通じ資料を配ったり、訓辞などが行われている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除はせず、人柄や適正に重点を置いている。働きやすい職場の雰囲気作りと、職員の資質の向上に心がけ、出来るだけ多くの研修に交替で参加している。旅費や参加費等へのサポート体制がある。また、内部の研修は職員が持ち回りで担当している。特技を活かし「母の日」には、管理者手作りのプレゼントが入居者の方々に届けられる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼や研修にて生活者の人権尊重にも取り組んでいる。職員の倫理綱領にも個人の尊重や差別プライバシーなどの基本的な遵守事項を定めたりしている。今後は研修の機会を作る予定である。	日々の朝礼時には冊子をもとに職業倫理や接遇等について講話が行われ、一日の始まりとしている。内外の研修や各種委員会活動を通じて、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修には積極的に参加を呼びかけ、費用負担も行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や協議会等が主催する研修に積極的に参加させている。また、他グループホームへ訪問し見学するなどの機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を中心によく生活者の話を聞くようにしている。また安心して生活していただけるよう希望などを聞き、最大限実現するよう努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも不安や不明な点がないかよく話しを聞き、信頼関係が築けるよう心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かつき苑のサービスはもちろん、外部の様々なサービスの紹介を含め、提案している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ家事等に参加していただくよう各生活者の特性を理解しながら協力をお願いしている。生活者も家事を楽しまれており、生きがいとなっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3～4ヶ月に一度は近況報告書を出したり、面会時には普段の様子を伝えたりするよう心がけている。また、各行事に参加してもらっている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会も来ていただいている。地域の祭りや催しなどにはバスで生活者を連れて参加するようにしている。	家族や知人の面会を始め、近所の方が野菜を持って来てくれたり、声掛けられたりしている。また、地域の行事に積極的に参加して馴染みの関係を継続している。利用者の自宅近くまでドライブに出かけたり、教職を務めた方による授業も開催されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係も踏まえ、生活の様々な場面で 席の配置や部屋割り等を生活者同士の関係などを 鑑みて調整している。また仲の悪い方同士の場合 も職員が間に入り仲裁したり、別の話題を話したり してトラブルを未然に防ぐ努力をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた生活者の家族が野菜をもってきて下さ る方もいる。良い関係を継続していけるよう努力し ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	生活者がここでどのように暮らしたいか、日頃ケア の中でマンツーマンになる機会に話を聴くようにし ている。希望があった場合は介護計画や日常の生 活に希望を反映できるようにしている。	日常の中で、言葉や表情、仕草等から思いや希望を 推し測り、職員間での共有に努めている。担当職員を 中心に個別カンファレンスを実施し、本人本位に基づく 検討を行っている。起床時間にあわせた朝食の提供 や晩酌の継続、生活環境の整備、職歴に配慮した働 きかけ等、個々の暮らしに応じた柔軟な実践が確認で きる。	馴染みの関係性の中で、個別の思 いやニーズの把握が行われていま す。職員個々が持つ情報を整理し、 根拠のある支援へと結び付けてい くことや、新たな気づきを共有して いくことも、アセスメント様式の充 実が期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	新たに入居された際は、苑での生活に役立てられ るように過去の生活歴や嗜好などの聞き取りを行 い、フェースシートに記入するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	職員1人1人が感じたり、聞いたりしたことは申し送 りやカンファレンスを通じ、一人一人生活の状況を 把握し、記録を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に月に1回カンファレンスを 行い、介護計画に反映するようにしている。また最 低半年に一回は主治医の意見書等を参考にモニタ リングを行い、介護計画の作成を行っている。	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、主治医 等の意見を参考にしながら競技を行い介護計画を作 成している。毎月のモニタリングやカンファレンスに て、現状の確認や見直しの必要性について検討を行 い、実際にその都度の反映が確認できる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	生活者の状況は記録や申し送りノートに記入し、全 員が同じケアができるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かつき苑は共生ホーム・デイサービス・ケアプラン・グループホームと多くのサービスを提供している。生活者の状況や精神状態によってグループホームだけでなく他のサービスを利用したり、対応してもらうなど、個別のサービスに捉われないケアを実践している。一人一人の状態に応じ、サービスの変更や新しい方法なども必要に応じ行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方などから意見を聞いたり、地域の行事に参加するなど努力を行っている。また近隣の方へ差し入れをしたりして関係を作っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に苑に往診に来ている。また専門的な医療が必要な場合は、主治医・看護師の意見を聞き必要な医療が受けられるように受診の支援を行っている。また主治医が勤務している日は毎日FAXで異常のある方の報告相談し指示をいただいている。	入居時に、かかりつけ医の確認や医療との連携体制について方針の共有を図っている。月2回の訪問診療や週に1回の訪問歯科診療の体制がとられている。個別の看護記録が丁寧に残され、日々の健康管理や早期対応に結び付けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は全生活者の状態を把握し、必要に応じ、介護職員や主治医、家族等に連絡相談を行い適切な医療を受けられるよう援助している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の生活者の生活の援助や家族への連絡等を行ったり、入院先の医療機関と情報交換を行い適切な治療が受けられ、またスムーズに退院ができるよう対処している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどこでどう迎えるか、家族へ希望を聞き確認する書類を作成している。それをもとに終末期ケアを実践している。	入居の際に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度話し合いを重ねながら、これまでに看取りを行った実績もある。運営推進会議の中でも、看取りケアを議題として意見交換が行われている。看取りに関する内部研修が実施されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等により緊急時の対応方法などを理解する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜両方の時間帯を想定した避難訓練をすでに実施している。また、消防等に意見を求めたり、地域の協力者を作り、緊急時に備えている。また関連施設にも協力できる体制がある。	消防署の指導のもと、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。その際には複数の地域の方が実際に避難誘導に加わり、災害時に備えている。地震マニュアルを整備し、緊急連絡網の確認も行われている。防災委員会が設置されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な機会生活者の尊厳・プライバシーに配慮した対応をするように指導している。入浴時は同性による介助をしたり、排泄介助時はカーテンを使うなど配慮している。	起床時間に合わせた朝食の提供や晩酌の継続、畳敷きに布団で就寝される方等、個別のライフスタイルの継続を大切にしている。排泄ケアや入浴時の声かけや距離感、プライバシー空間としての居室の位置付け等に配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者の一方的なケアにならないよう自分で希望を言えるように話を聞くようにしている。それらをカンファレンス等で話し合う機会も作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて強制的な日課を作らず、その日の体調や希望によって生活者のペースで生活してもらうように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ生活者のしたいおしゃれができるよう配慮している。女性の誕生日には化粧をしてもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活者の嗜好を把握し、食事形態を変えたり、嫌いなものときは別のものを作ったりしている。下ごしらえや味見、片付けなど生活者にも手伝ってもらいながら行っている。	ユニットごとに調理が行われ、冷凍食品やインスタントは使用していない。嗜好を把握しながら献立に反映させ、代替品や食事形態にも配慮されている。買物や下ごしらえ、後片付け等を役割として担ってもらい、個別のペースを大切にしながら食後の余韻も楽しんでいる。朝食も起床にあわせて柔軟に対応し、晩酌の継続等も支援している。食事改善委員会が設置されている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録するようにしている。水分は定時には必ず摂ってもらうようにし脱水等を予防している。病気で食事や水分量が入らなくなった方には、必要に応じ主治医と相談しながら、ゼリー・流動食等も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表を作成し、自分でできる方は自力で、介助が必要な方は職員が、一人一人にあった口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にトイレ誘導を行い、失禁のないように対応している。時間をきめて誘導する方もあるが、希望にあわせて誘導する方もある。できるだけトイレでの排泄ができるように介護計画を立てている。	生活・健康観察カードを用い、個別の状況やパターンの把握に努めている。トイレでの排泄を基本として、声かけや誘導を行うとともに、下肢機能の維持、向上に向けた働きかけを行うことで、失禁の減少に結び付けている。介護計画の中にも位置付けながら、個別の排泄ケアを支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はすべて量や回数をチェック表につけている。それにより排便がない、または下痢状態を把握し、看護師や主治医と相談し対策を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	誰がいつ何時に入浴などは決めず、バイタルや看護師と相談しながら生活者のペースや必要性にあわせ入浴を行っている。またその記録をつけている。	毎日入浴準備を行い、少なくとも週に2、3回は入浴できるように、午前から夕方まで、希望や体調に応じた柔軟な対応が行われている。入浴に関する内部研修が実施されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や消灯時間は決めておらず、生活者自身が自分のペースで寝起きしてもらっている。体調や病状に合わせてながら、生活者自身の希望で午睡してもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や主治医をとおし、服薬の管理を行っている。症状についても看護師・主治医にそのつど相談し、薬の内容を決めてもらっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや配膳、掃除、洗濯たたみなど生活者の一人一人の希望や嗜好に合わせて、やりたいことができるようにしている。また、カンファレンスでも何か出来る事やしたいことがないかなど話し合う機会を作っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など希望により個別に対応している。また、季節にあわせバスにて祭りや自然を観察しに外出したりしている。	大型バスを所有しており、全体行事として季節感ある外出支援が行われている。また、希望の場所や買い物等、個別～少人数での支援も行われている。日常的にも、散歩の際に近所の方々に挨拶したり、自宅までのドライブツアー、地域行事への参加等にて戸外に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方には管理してもらっている。買い物など希望があれば対応するようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があればその都度支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の野花を飾り、季節にあった(毎月)創作物を掲示するなど、全館で生活者が快適に生活できるよう配慮した環境作りを心がけている。	生活空間の各所に、入居者の方々や管理者の手による季節感ある作品が飾られている。施設感は少なく、生活感あふれる室内空間である。食卓やソファ等、それぞれの方にとってのくつろぎの場所がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも座る以外のイスとソファを配置し、思い思いの過ごし方ができるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活者や家族から意見や希望をききながらベッドやふとん、たたみのセッティングを行っている。	備え付けの整理棚が各部屋に設置され、テレビやキーボード等が持ち込まれている。個別のリスクや生活習慣に応じて、畳敷きも選択可能である。通風の小さな窓も設置され、細やかな配慮となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適所に手すりを設置し、移動が困難な場所には職員が介助して移動してもらっている。		